

# 大津企業景況調査報告書

(第84回)

平成31年1月～3月期 実績

平成31年4月～6月期 見通し

大津商工会議所

# 大津企業景況調査について

(平成31年1月～3月期)

## 1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 161 社に F A X方式による調査

## 2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	16社	10社	62.5%
卸 売 業	15社	12社	80.0%
小 売 業	40社	21社	52.5%
サービス業	61社	34社	55.7%
建 設 業	29社	16社	55.2%
合 計	161社	93社	57.8%

## 3. 調査期間

調査対象期間は平成31年1月～3月とし、調査時点は平成31年3月1日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

## 景況感は緩やかに回復するも、業種でまだら模様

平成 31 年 1 月～3 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりという意味する。

### 全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断 DI（前年同期比）が前四半期から 2 ポイント改善して▲3 となり、3 四半期の間拡大していた悪化幅が縮小し緩やかな回復となった。但し、業種により濃淡があるまだら模様になっている。災害復旧工事等で受注が多い建設業は堅調で、卸売業、製造業でも大幅改善した。一方、小売業、サービス業では小幅悪化している。人員不足は製造業とサービス業で小幅改善したが、全体では人手不足感が強まっている。

先行きの業況判断 DI は、▲3 から +4 へと改善が見込まれ、1 年ぶりにプラスに転じるとみており、全国的には景気拡大シナリオに黄信号がともっている中、逆行する動きである。製造業は横ばいとみているが、その他の業種は押しなべて改善するとみている。売上や採算も総じて改善するとみているが、「従業員」については、全業種で引き続き人手不足感が高止まりするとみている。

### □ 業況判断 DI（前年同期比）は、全体では緩やかに回復するも、業種でまだら模様

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲5 から 2 ポイント改善して▲3 となっている。業種別では、建設業は堅調で、製造業と卸売業で大幅に改善したものの、小売業、サービス業では悪化した。人員不足は製造業、サービス業で小幅改善したが、建設業、卸売業、小売業で悪化し、全体で人手不足感が高止まりしている。

### □ 売上 DI（前年同期比）は、全体では改善するも、業種によりバラツキあり

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前四半期の▲2 から 4 ポイント改善して +2 となり、プラスに転じた。業種別では、卸売業や小売業は悪化した。製造業で 13 ポイント、サービス業で 12 ポイントと大幅に改善し、建設業でも 4 ポイント改善し、この 3 業種が全体をけん引している。

### □ 採算 DI（前年同期比）は、全体で改善し、卸売業、サービス業で特に顕著

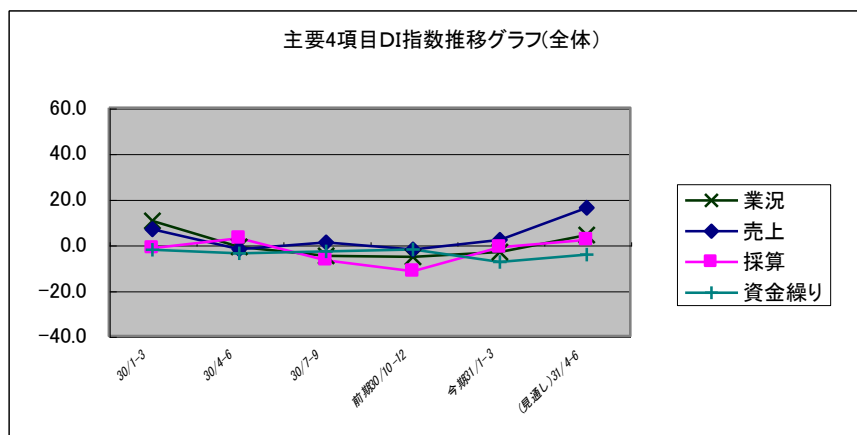
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲12 から今四半期は▲1 へと大幅に改善した。製造業の横ばいを除き他の全ての業種で改善した。特に卸売業は▲15 から 23 ポイント改善して +8 へと、半年ぶりにプラスに転じた。

### □ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は、全体では悪化するも、資金の借入れ易さは改善

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期比、6 ポイント悪化し、▲8 となった。特に建設業では前四半期の +13 から 38 ポイント悪化して▲25 となった。災害の復旧工事等で売上は伸びているが、その分、運転資金の確保が困難になっているとみられる。一方で、資金の借入れ易さは長期、短期とも全体では改善している。

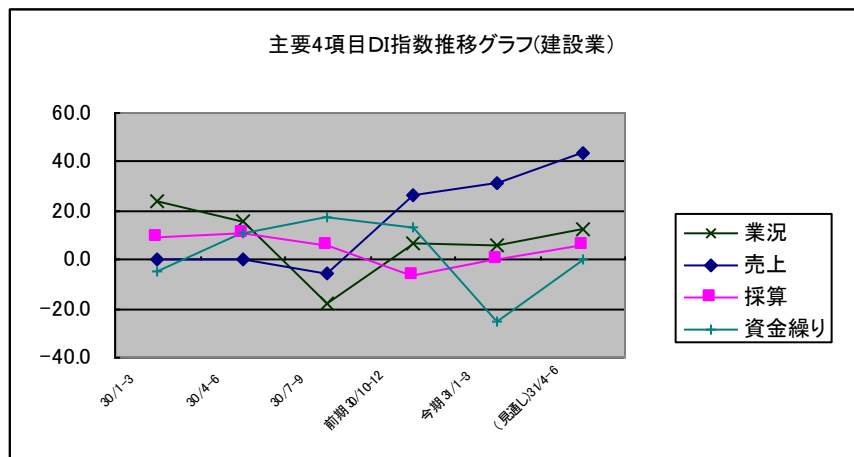
### □ 従業員 DI（前年同期比）は、一部で改善の兆しもあるも、全体では人手不足感は強まる

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は、前年同期比 2 ポイント増加し +28 となり、人員不足感が強まっている。業種によってバラツキがあり、製造業、サービス業では改善の兆しがあるものの、建設業、卸売業、小売業ではさらに人手不足感が強まっている。



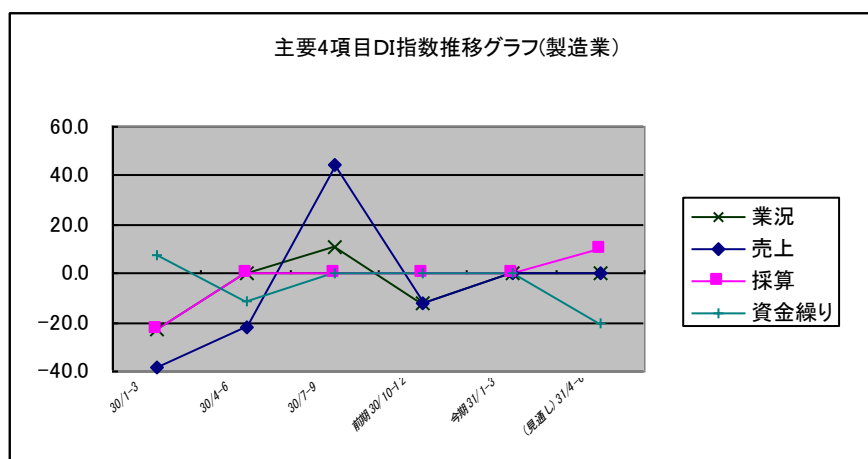
## 建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+7 から今四半期は+6 と引き続きプラスを維持している。平成 30 年秋の台風等の被害の復旧工事の受注が引き続き寄与していること等が要因とみられる。個別指標をみると、「売上」は前四半期+27 から今四半期+31 へ、「採算」は▲7 から±0 へ、「採算の水準」も+60 から+63 へ改善し、「問合せ」も高水準が続いている。一方で、「従業員」は+33 から+50 と、さらに厳しい人手不足状態となっている。



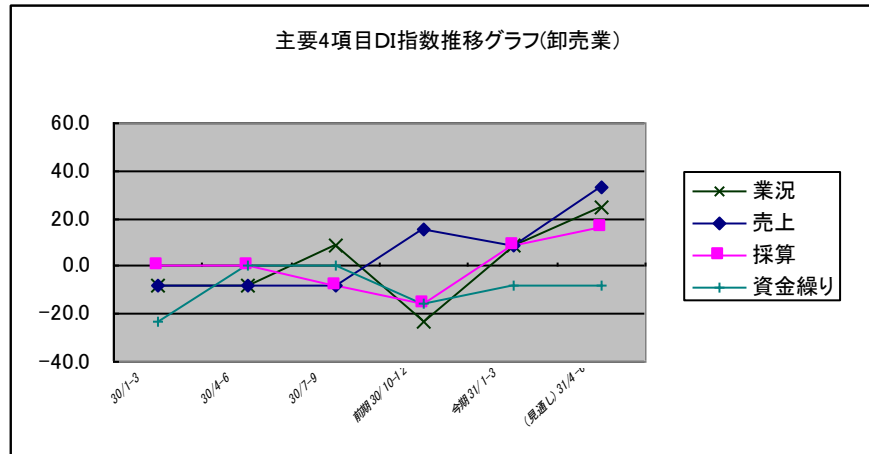
## 製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲13 から今四半期は±0 へと改善した。国内外の需要増を背景に大企業を中心とした好景気の影響が地方の製造業にも波及しているとみられる。個別指標をみると「売上」は前四半期▲13 から今四半期±0 へと改善した。「採算」については±0 を維持したものの、「採算の水準」については+50 から+20 へと悪化した。最低賃金の上昇や人手不足の影響による人件費の増加が影響しているとみられる。



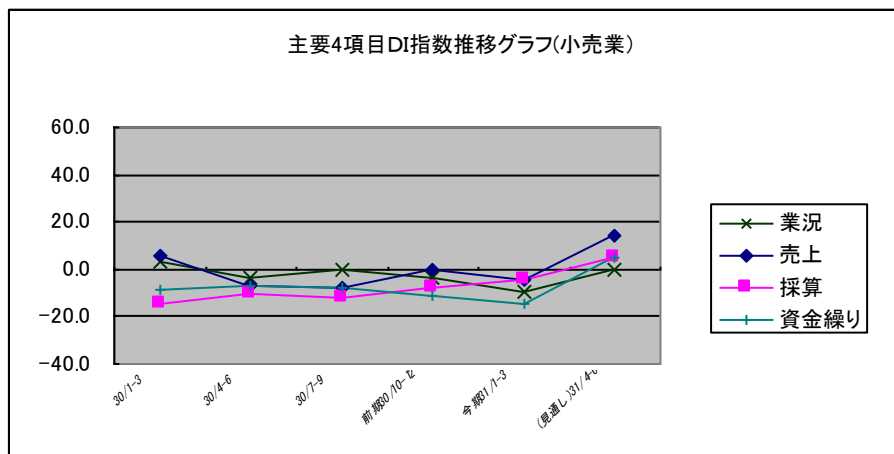
## 卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲23 から今四半期は+8 へと大幅に改善した。個別指標をみると、「売上」は前四半期+15 から今四半期+8 となり、プラス幅は縮小したものの、「採算」は▲15 から+8 へ、「採算の水準」も+15 から+25 へと大幅に改善している。「従業員」は+15 から+25 へとなり、人手不足感が再び高まってきた。



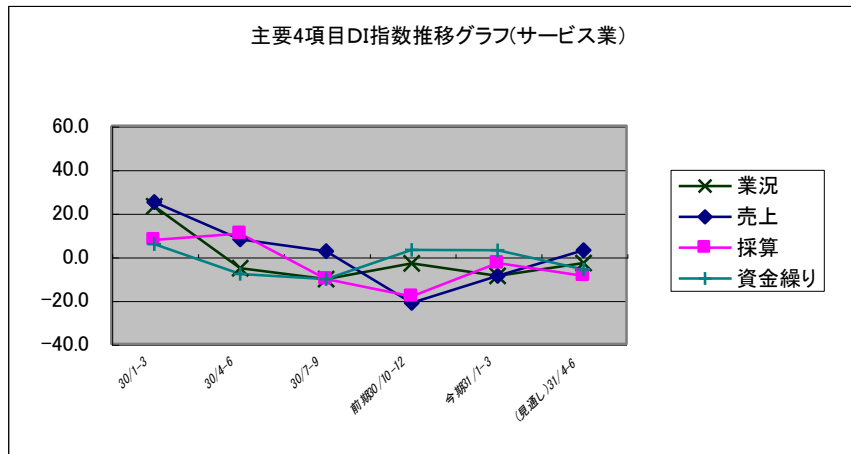
## 小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲4 から今四半期は▲10 とさらに悪化した。個別指標をみると、「売上」は前四半期±0 から今四半期▲5 へと悪化している。「採算」は▲8 から▲5 へと小幅改善しているものの、「採算の水準」は人件費増もあり+12 から▲5 へと悪化している。「従業員」は+31 から+33 へと引き続き厳しい人手不足感が続いている。



## サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲3 から今四半期は▲9 へと悪化した。個別指標をみると、「売上」は▲21 から 12 ポイント改善して▲9 に、「採算」は▲18 から 15 ポイント改善し▲3 になっている。売上や採算は改善しているが依然水面下であることと来たる消費税増税への懸念等が業況判断に影響しているとみられる。「従業員」は+21 から+18 へとやや緩和したものの、引き続き人手不足感の高い状態が続いている。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲3 から+4 へと改善するとみている。全国的には景気拡大シナリオに黄信号がともっている中、それと逆行する動きである。個別指標をみると、「売上」は+2 から+16 へと大幅改善するとみている。「採算」も▲1 から+2 へ、「採算の水準」も+19 から+24 へと改善するとみている。「従業員」は+28 を維持し、人員不足感の高止まりするとみている。

業種別の「業況」DIでは、製造業は±0 で横ばいを見込んでいるほか、卸売業は+8 から+25 へと顕著な良化を見込んでおり、残る業種も改善を見込んでいる。しかしながら、「採算」の悪化を見込んでいるサービス業や、「採算の水準」の悪化を見込んでいる建設業や製造業はともに「問合せ」の悪化を見込んでいる。ここに中国経済の減速や欧州などの不安定な世界情勢、消費税増税の影響への懸念、株安による個人消費への懸念、および人手不足による人件費の高騰等から、景気の先行きに慎重な姿勢が垣間見える。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は29%で、3ヵ月前より3ポイント低下した。設備投資計画がないと回答した企業の割合は68%で、全体で見ると設備投資意欲は低い状態が継続しているとみられる。業種別にみると、卸売業が最も高く58%、製造業50%、建設業が25%、小売業が24%、サービス業が18%である。

投資する企業の投資内容の割合は、「設備更新」が50%で最も多く、「合理化・省力化」が18%、「生産力増加」が14%である。引き続き、老朽化した機械・装置の入れ替えが進むとみられる。「合理化省力化」について業種別で見ると、サービス業で29%、小売業で25%、製造業で20%となっており、人手不足対応の投資は継続していくとみられる。

投資方針は、「計画通り」が前四半期60%から今期52%へと後退し、「景気により見直し」については30%から33%へと増加している。

不安定な政治・経済情勢を背景に先行きに警戒感を示し始めた大企業の景況感の変化に、地方の中小企業も影響を受け、設備投資に慎重な見方をしていることがうかがえる。

田中マネジメント事務所  
MBA・中小企業診断士 田中清行

## (今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・最低賃金の上昇による影響は大きい。単価を上げることはままならず、人件費↑人材難。(製造業)
- ・働き方改革を理解して共有するのが難しいと感じています。コンビニの営業時間の話も時代の中でとらえ方が様々だと思います。自分が変わらないと目の前の課題も変わらない。(小売業)
- ・需要の停滞というより分散縮小があるように思える。経営方針はまとまったが販売ルート、方法、新規顧客の獲得努力を要する。顧客へのリリース、商品のみきわめ、顧客のニーズへの的確な把握への努力。売れ筋商品の仕入れ等の営業努力です。経済情勢は不安で不明、生活にゆとりがないようで需要に明るさがない。(小売業)
- ・東京方面のみ繁盛で地方都市にはまったく景気が良くなる様には思えません。もっと観光客を地方都市にも誘致するよう活気ある政策を考えて頂きたい。(サービス業)
- ・今年はいよいよ消費税増税の年になりそうですが、ますます経済状況が厳しくなると思われれます。色々な経済対策を用意して混乱を招くぐらいなら、減税による消費意欲のアップを目指した対策政策を打ち出してほしいです。(サービス業)
- ・昨年の7月8月9月の気象変動で大幅に受注減少があったが、現在はその3カ月分の減少分が現時点で増加しているが、やはり今年の夏の気象変動が気にかかる。(サービス業)
- ・今年に入り慎重な見通しが続き、先行き不透明感が増している。全体的には景気にかかわらず継続して課金収入が得られるビジネスが好調である。(サービス業)
- ・去年の秋の台風修理が尾を引いています。新築物件も多く、職人不足が問題です。大津市リフォーム補助金の復活を願います。(建設業)

以 上

## DI 指数一覧表

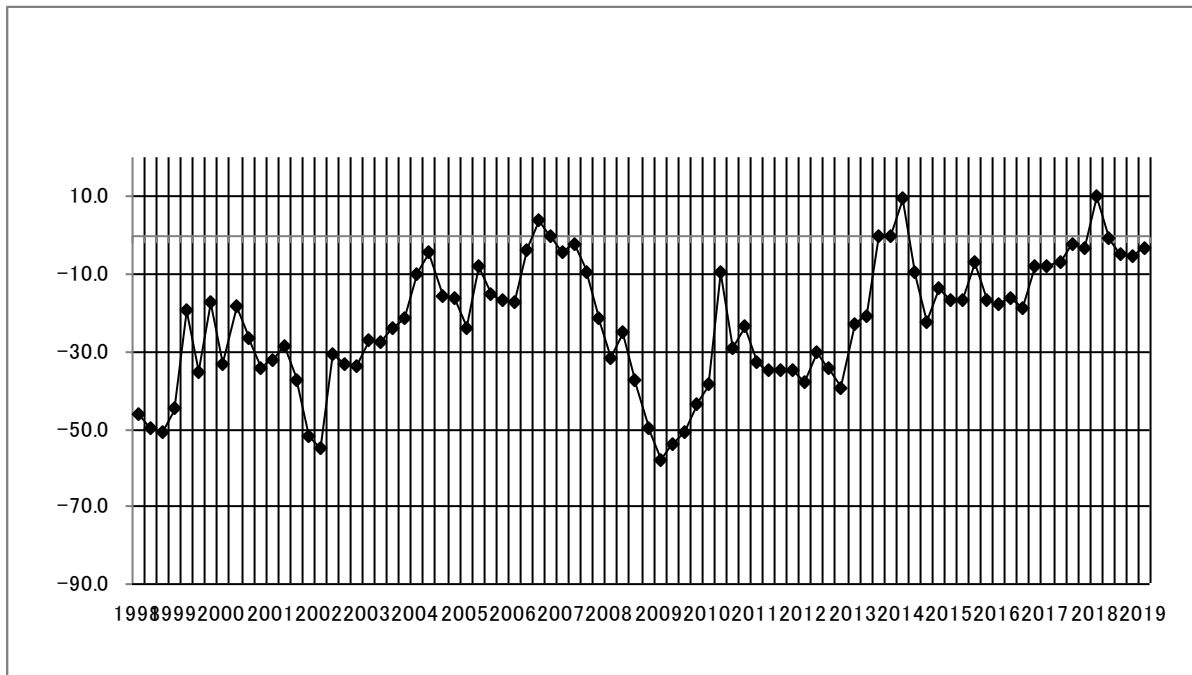
	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	▲3.2	4.3	2.2	16.1	▲1.1	2.2
建 設 業	6.3	12.5	31.3	43.8	0.0	6.3
製 造 業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
卸 売 業	8.3	25.0	8.3	33.3	8.3	16.7
小 売 業	▲9.5	0.0	▲4.8	14.3	▲4.8	4.8
サービス業	▲8.8	▲2.9	▲8.8	2.9	▲2.9	▲8.8
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	19.4	23.7	0.0	▲1.1	28.0	28.0
建 設 業	62.5	50.0	18.8	6.3	50.0	43.8
製 造 業	20.0	10.0	10.0	0.0	20.0	20.0
卸 売 業	25.0	50.0	▲8.3	16.7	25.0	25.0
小 売 業	▲4.8	9.5	▲23.8	▲14.3	33.3	33.3
サービス業	11.8	14.7	5.9	▲2.9	17.6	20.6
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	



	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し
全体	▲7.5	▲4.3	3.2	1.1	5.4	3.2
建設業	▲25.0	0.0	18.8	12.5	31.3	25.0
製造業	0.0	▲20.0	▲10.0	▲10.0	0.0	0.0
卸売業	▲8.3	▲8.3	16.7	16.7	0.0	0.0
小売業	▲14.3	4.8	▲4.8	▲4.8	▲4.8	▲4.8
サービス業	2.9	▲5.9	0.0	▲2.9	2.9	0.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

## 大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>